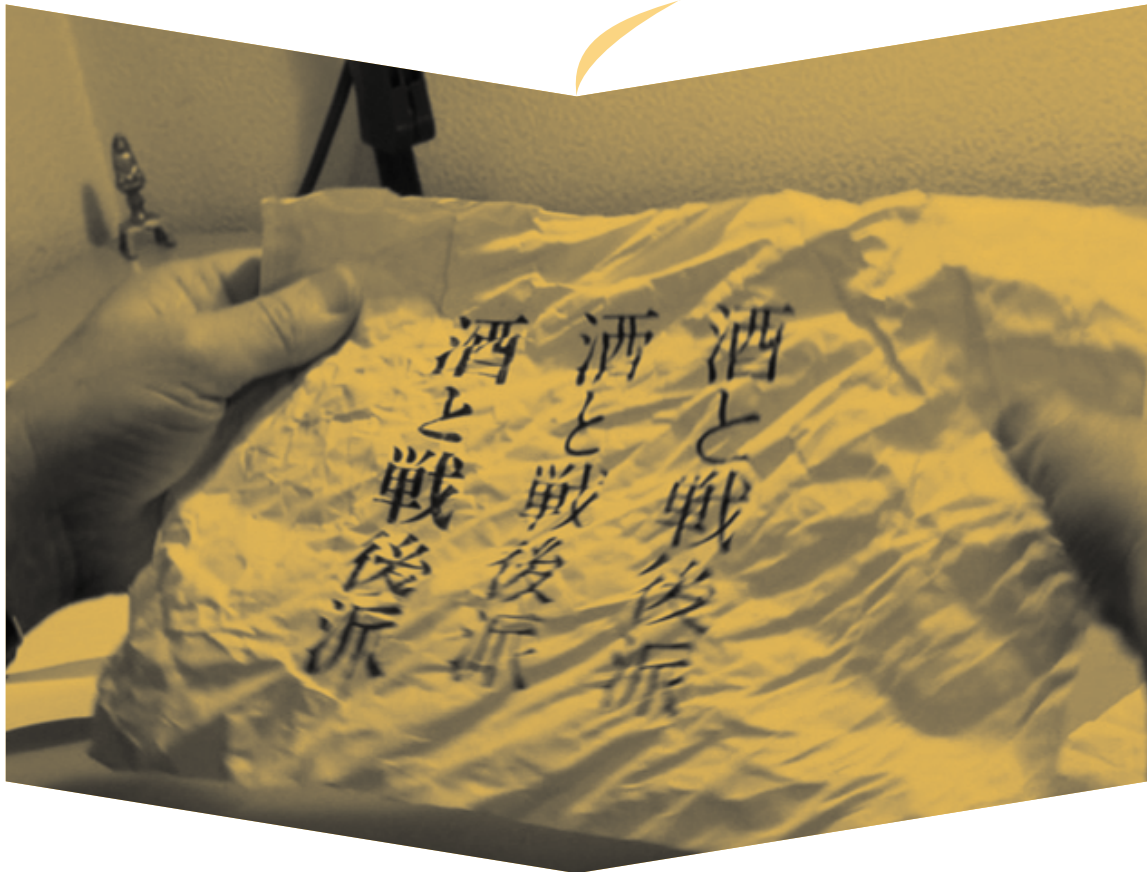
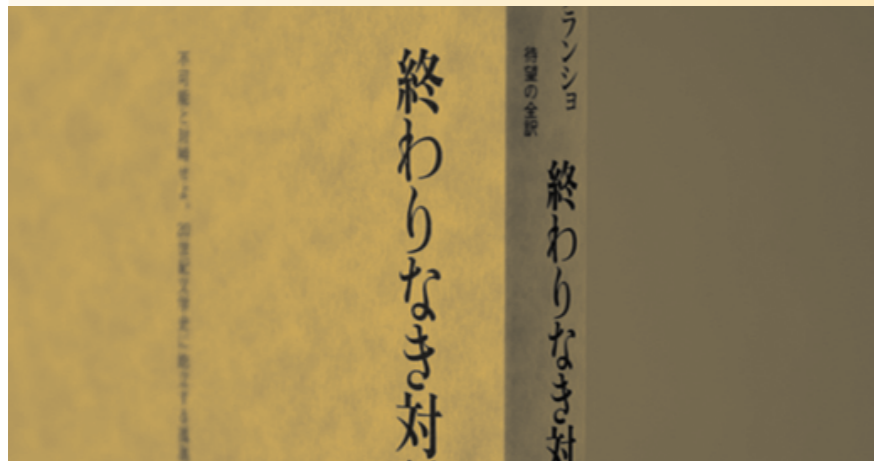
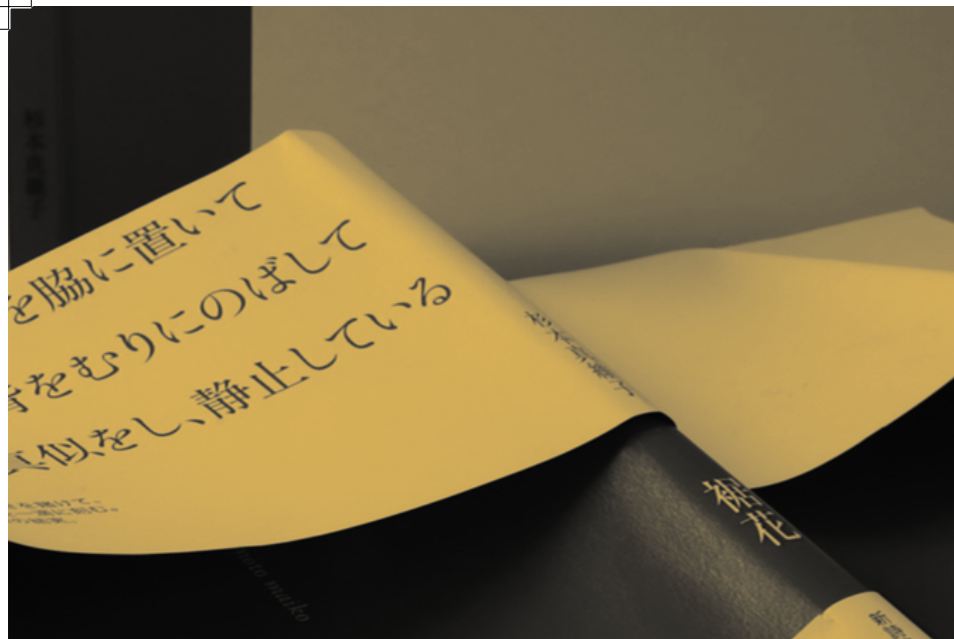


ついでに ひらいて

- Tuck and open -

菊池信義





Chapter 1

INTRODUCTION

作品介绍 004

Chapter 2

Designer

デザイナー 006

Chapter 3

BOOKDESIGN

書籍デザイン 008

Chapter 4

INTERVIEW

インタビュー 012

Chapter 5

CHARACTER

登場人物 014



情に棹させば流される。住みにくさが高じると、安い所へ引き越した

智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住みにくい。とかくに人の世は住みにくい。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。意地を通せば窮屈だ。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。とかくに人の世は住みにくい。山路を登りながら、こう考

えた。情に棹させば流される。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。とかくに人の世は住みにくい。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。山路を登りながら、こう考えた。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。

一、ならべる

二、はかる

三、つながる

四、さがす

五、しばる

六、めぐりあう

七、ときはなつ



つつんで、ひらいて

- Tuck and open -

情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。意地を通せば窮屈だ。意地を通せば窮屈だ。情に棹させば流される。情に棹させば流される。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。情に棹させば



智に働けば角が立つ。住みにくさが高じると

Chapter **2** Designer

デザイナー



菊池信義
Nobuyosi Kikuchi

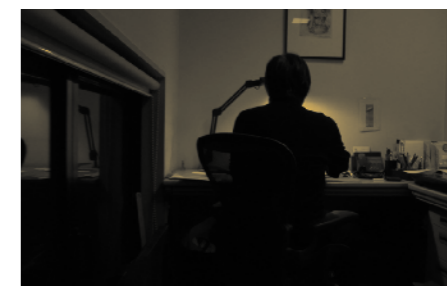
情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。

住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。智に働けば角が立つ。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。とかくに人の世は住みにくい。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて

つつんで、ひらいて
- Tuck and open -



とかくに人の世は住みにくい。とかくに人の



智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住

どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。山路を登りながら、こう考えた。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。智に働けば角が立つ。情に棹



山路を登りながら、こう考えた。とかくに人



山路を登りながら、こう考えた。情に棹させ

File_001

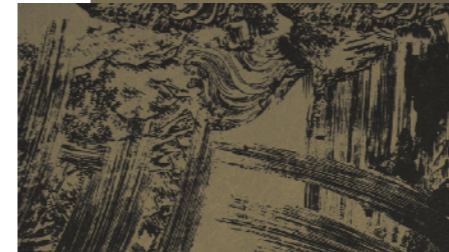


「雨の裾」

講談社
2015

住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。智に働けば角が立つ。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。

File_002



「山蹠賦」

講談社文芸文庫
1982

とかくに人の世は住みにくい。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。住みにくさが高じると、安

File_003



「野川」

講談社文庫
2004

とかくに人の世は住みにくい。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。住みにくさが高じると、安

File_004

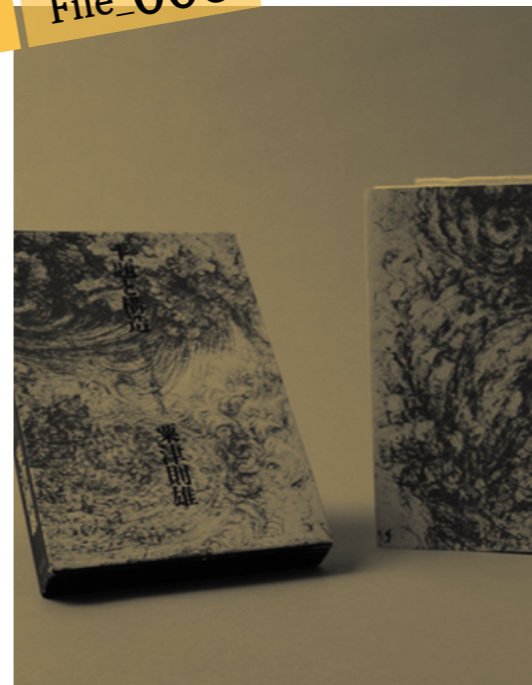
「白暗淵」

講談社文芸文庫
2007

とかくに人の世は住みにくい。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。住みにくさが高じると、安



File_006



「主題と構造」

集英社
1977

とかくに人の世は住みにくい。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。住みにくさが高じると、安

つつんで、ひらいて
- Tuck and open -



File_005

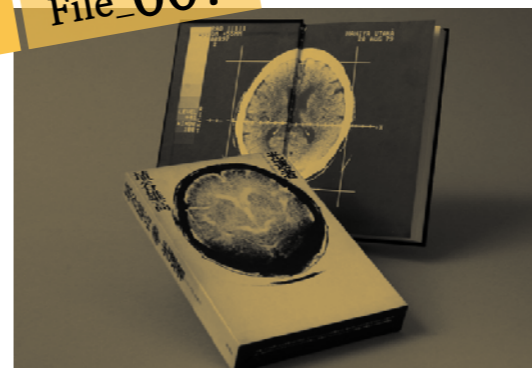
「十八歳、海へ」

集英社文庫
1979

山路を登りながら、こう考えた。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が



File_007

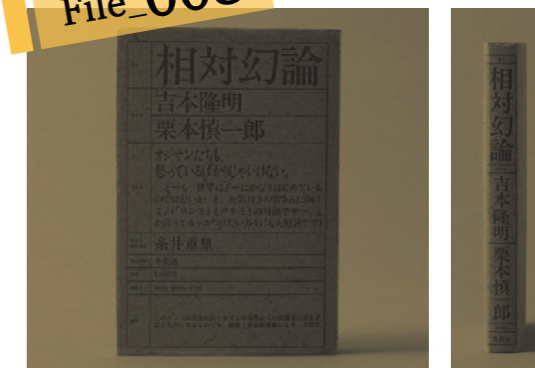


「光速者」

作品社
1979

山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住みにくい。とかくに人の世は住みにくい。山路を登りながら、こう考えた。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。

File_008



「相対幻論」

角川書店
1985

山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住みにくい。とかくに人の世は住みにくい。山路を登りながら、こう考えた。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。

装幀者・菊地信義さんの仕事を約3年にわたって追いかけたドキュメンタリー『つつんで、ひらいて』が関西の劇場で1月11日（土）より公開。今回、広瀬奈々子監督にインタビューを行った。

ものづくりの原点を探っていく旅

映画『つつんで、ひらいて』は、『夜明け』の広瀬奈々子監督が、ブックデザイン界の第一人者・菊地信義を追ったドキュメンタリー。ブックデザイナーの菊地信義は独立から40年、中上健次や古井由吉、俵万智、金原ひとみらの著作1万5000冊以上の装幀を手がけ、日本のブックデザイン界をリードし続けてきた。インターネットが日常的になり、デジタル全盛の時代にあって、紙の本にこだわり、紙と文字を触りながら手作業で一冊ずつ本をデザインする菊地の指先から、印刷、製本に至る過程を見つめ、ものづくりの原点を探っていく。父親が装幀家だっ広瀬監督。だが、装幀については、漠然とした理解しかなく、本のカバーを作る人だと捉えていた。監督が20歳の頃に父親が亡くなり、改めて「装幀とはどんな仕事だったのか」と疑問に思い始め、家の本棚にあった菊地さんの『装幀談義』を読んでみることに。その内容は非常におもしろく、菊地さんの思想に次第に惹かれていく。芸術家ではなく、あくまで、職人であろうとする姿勢から装幀という職業が腑に落ちてしまう。「器であることに自覚的。制約も当然あるし、自己実現が目的ではなく、テキストがあってこそ成り立つ。テキストを外側に引っ張り出す表現」こそが装幀だと理解し「自分の作家性や個性を本に込めていない姿勢が素晴らしい」と感銘を受けた。

2014年12月に菊地さんに取材を依頼したが、第一声は「僕は映像が嫌いだ」。これまで、ほとんどの取材は断っており、唯一受けた取材では、作られたシナリオに当てはめるスタイルが求められてしまい、性に合わなかった。だが、1か月後にお会した時は態度が一変しており「良いことを思いついたんだ」と云われ「頭部に小さなカメラをつけて撮影してはどうか」と嬉しそうに提案されてしまう（実際には行ってない）。まさに「厄介な人だな」と感じざるを得なかった。初めて事務所で実施した撮影では、装幀について



イチから説明し講演会の如く2時間近く一気に喋られ、圧倒されてしまった。「言葉で武装し哲学がある人なので、これだけを撮っていくのはマズい」と気づき、「解説ではなく、菊地さんの仕事をしている指先と紙を出来る限り撮りたい」と趣旨を伝えていく。また、必要に応じて聞くので仕事に集中してもらうことをお願いした。やはり、紙に触っている手が最も雄弁に装幀を語っているの、焦点を絞った撮影となっている。

装幀を映像で紐解いた本のようにしたかった広瀬監督は、机上で要素出しを行い、言葉で書いて当てはまるようなシーンを組み合わせながら本作の断片を並べていった。装幀を担った本の作り方は全て繋がっており「どのように繋げるとおもしろく見えるか」と意識している。各章は、ひらがなを用いた動詞にしており「タイトルをつけてしまうことで、当てはまらないシーンも出てくる」と気づき、出来るだけ抽象度の高い言葉を選んでいった。なお、学生時代は制作会社でアルバイトをしており、是枝裕和監督による制作会社「分福」に所属して以来、先輩監督達の姿を見て、TV番組「きょう



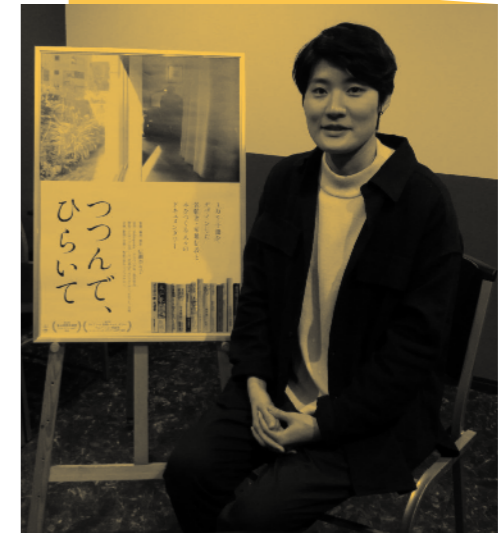
の、あきない」等の制作にも携わっており、ドキュメンタリーは身近なものとなっている。

今作により、装幀の仕事を取材し、菊地さんの姿勢から常に刺激を受けており「自分がこうしたいという姿勢を貫くことが正解ではない。イメージと違ったものを好意的に受けとめている姿勢には見習いたい」と話す。本作最後のインタビューでは、受注仕事における創造性について尋ねており「人間は関係性によって出来ている」と言ってくれたことが救いになった。「今後の自分自身のものづくりにおいても大切に携えていきたい言葉」だと述べ、菊地さんに本作を観てもらい「『僕は君に装幀された』と言われ、腑に落ちました」と嬉しそうに語った。

ルーティンを守りまっさらに

2018年3月。菊地信義さんと初めてお会いして4年、ドキュメンタリーを撮り始めて3年の時が経っていた。まだまだ撮りたい私と、もうそろそろ撮り終わってほしい菊地さんの我慢比べもいよいよ最終章。最後に、通勤風景を撮影させてほしいとお願いした。銀座の松屋ビルの出口で待ち合わせ、少し離れたところからカメラを構える。菊地さんは午前10時きっかりに現れた。回してますよ、とアイコンタクトをとる。通り過ぎた菊地さんの背中を追いかけて、通い詰めた仕事場までカメラを回した。

菊地さんの自宅は鎌倉にある。毎朝同じ時間の電車の同じ車両に乗って、約2時間かけて銀座の事務所に通う。仕事をする前に「樹の花」という喫茶店に立ち寄り、いつもと同じ奥の席でフレンチ・コーヒーを二杯飲む。服は頭から足のつま先まで全身真っ黒。仕事机は整理整頓され、その日に取り組む作品だけ出して机に向かう。玄間に置かれた大きな壺に、季節の花や実のなった枝が品良く生けてある。昼食も毎日同じ時間に取り、作業が終わっていても、17時か18時には事務所を後にする。



常にきちんとこのルーティンを守る菊地さんの律儀さは、デザイナーというより、まるでサラリーマンのようである。自分の決めたルールに従い、同じ関係性を維持し、淡々と仕事をこなしていく作家然としない態度の一つひとつに、装幀という仕事の本質を見ているような気がした。そうやってそれぞれの作品と対峙するために、毎日自分をまっさらにしていると菊地さんは言っていた。無理をしている風ではない。おそらく元来、気っ風がいいのだ。

自分ではなく言葉のために

ほとんどの装幀家がパソコンに移行して久しいが、菊地さんは従来通り、台紙に紙を切り貼りして本のデザインをしている。ピンセットで文字を置き、定規で線を引いて、幾度となく触り、凝視する。この文字があるべき位置を探り、0.1ミリまで微調整を繰り返す。

菊池「ひらがなの、『の』を1ミリ左にしてくれる？」



Chapter **5** CHARACTER

登場人物

つつんで、ひらいて
- Tuck and open -



水戸部功

智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。智に働けば角が立つ。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。情に棹させば流される。



古井由吉

情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。情に棹



鈴木一民

情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。情に棹



大泉史世

情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。情に棹



高木真史

情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。情に棹



菱沼達也

情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。情に棹



神保博美

情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。山路を登りながら、こう考えた。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。情に棹

STAFF

監督・撮影・編集 広瀬奈々子

出演 菊池信義
水戸部功
古井由吉
神保博美
鈴木一民
大泉史世
菱沼達也

和氣元
稲川方人
田中尚史

制作 川城和実
潮田一
有吉司
藤本俊介
是枝裕和

プロデューサー 北原栄治
撮影・照明 跡地淳太郎
監督助手 孫明雅
音楽 biobiopatata
エンディング曲 鈴木常吉
企画・制作 分福



C2019「つつんで、ひらいて」製作委員会